

晴れがわ

登場人物

花雨子（はなあめこ） 花家の長女。

夢雨子（ゆめあめこ） 羊人間となった花雨子。

土雨子（つちあめこ） 羊人間となった花雨子。

形（かたち） 花家の長男。雨子の兄。

風野（かぜの） 花家の次男。雨子の弟。

カゼノ（かぜの） 羊人間となった花雨子の息子。

明（あきら） 雨子の婚約者。

村（むら） 風野の恋人。

一場

月面。明と花雨子が立っている。二人の首元には機械が取り付けられており、そこからチューブが伸びている。チューブは二人から少し離れた機械に繋がっている。満天の星空の中に、ぼっかり地球が浮かんている。花雨子は地球を見て、月の地平線を見て、それから明を見て、歌をうたった。歌は自分で思った声よりかすれて響いて、おかしかった。おかしくて悲しくなった。それを見て、明は自分のと、花雨子のチューブを機械から抜いた。

花 明日だよ

明 うん

花 せっかち

明 予行練習だよ

花 練習ってそれだけだよ チューブを抜いて終わり

明 うん

花 羊人間になるんだよ

明 なれるといいね

花 なれるよ お月さまの上だもの

明 実感がまだわいてなくて

花 お父さんとお母さんもそうだったって

明 え

花 小さい頃から読んだの お父さんの日記 私たちと一緒に 死ぬ前にこうやってお月さまに来て お月さまのホテルに泊まって お月さまの海に立ったって お父さんとお母さん 明日いなくなることなんかそっちのけでホテルの味付けに文句を言っていたんだって

明 そう

花 でも死んだんだよ 次の日にきちんと

明 僕たちも きちんと

明は砂をじつと見ている、花雨子は明の表情を見て、目を空へそらした。

明 明日死ぬよ

花 地球

明 うん

花 こうやって見ると 地球もきれいだね

明 そうだね

花 あんなに小さいところに私たち住んでいたんだね

明 きれいだね

花 楽しかったね

明 楽しかったね

花 戻そうか

明 え

花 チューブ だって予行練習でしょ今は

明 うん

花 明くん

明 うん

花 また明日

明はチューブを接続しようとする。花雨子のものから。しかし、砂がかんだのか、チューブがうまく接続できない。

明 え

花 なに

明 ちよつと待つてね

花 接続できないの

明 大丈夫だと思う 砂がかんでるんだよ

花 そう

明 月の砂って大きいんだよ粒々が

花 そう

明 あれおかしいな ちよつと待つてね あれ ちよつと
あこつちで試してみるね あれおかしいな え ちよつ
と あれ え待つてねもうすぐだから もう少し もう
少し もう少し いや え あれ 待つて 待つて

花 明くん

明 うん

花 大丈夫だよ

明 え

花 予行練習じゃなくなったね

明と花雨子は見つめ合う。明から、花雨子の表情は地球光
の逆光で見えない。だから明は、花雨子の背後に広がる満
天の星空を見つめた。

二場

月のホテル。風野と村の部屋。風野は窓から外の景色を眺
めている。村は、風野の発した一言に言葉を失っている
ところだった。

村 え

風野 すごいね お月さんて本当に何もないんだね

村 いや 風野くん なんて

風野 お月さんて何にもないねって 見てみなよ窓の外

村 いや風野くんその前

風野 あの

村 うん

風野 死んだって

村 お義姉さんが

風野 そうだよ

村 え

村は、風野の表情から状況を読み取ろうとしたが、いつも
と同じ穏やかな風野であった。

風野 この窓割れたらやつぱりこの部屋の空気とかびよお
おって抜けるのかな

村 結婚式まだだよ

風野 分かんないけど そういうことにしたんじゃない

村 そういうことって

風野 結婚式の前に死ぬことにしたんじゃない

村 え本当に

風野 知らないけど

村 本当に亡くなったの

風野 そうだよ え 俺言ったよね

村 うん聞いた

風野 雨姉ちゃん結婚式のあと結婚相手と死ぬんだよって

村 明さんはどうなったの

風野 明さんは生きてるって

村 え なんて いやいいんだけど生きてていいんだけど
えお義姉さんは

風野 だから死んだって え俺言ったよね雨姉ちゃん結婚
式のあと結婚相手と死ぬんだよって

村 え死ぬっていうのは死ぬほどさびしくなるけどねって
ことじゃなくて

風野 うん

村 え死ぬっていうのは本当に死ぬって意味なの

風野 えごめん俺村ちゃんの言ってること難しいかも

村 え全然難しくないよ 死ぬって心臓がとまるってこと
って意味

風野 え死ぬって他に何があるの

村 戸籍を消すとか

風野 そんなことしたら犯罪だよ

村 犯罪だよでもそんなこと言ったら死ぬのだって犯罪で
しょ

風野 えごめん俺村ちゃんの言ってること難しいかも

村 え全然難しくないよ 死ぬのは法律に違反してるんじ
やないのって意味

風野 え

村 いや違反してないんだけどね

風野 うん

村 違反してないよ

風野 うん

村 してないけど ええ ごめんね風野くん

風野 え

村 私本当に死ぬだなんて思ってたなくて私ずつとかかれててごめん

風野 いやいいよ

村 私なんにも分かってなくって ずつとかかれてた だ
って初めてお月さんまで来てさ お月さんのホテル泊ま
ってさ この部屋天井低いねだとか 値段高いわりに素
つ気ないねとか私ずつとかかれてた

風野 いいようかれて

村 だって結婚式だって聞いてたからさ

風野 いいようかれて

村 うかれていいわけじゃないでしょ人が死んでるのに なん
で止めてくれなかったの私うかれてたのに

風野 いいんだっておめでたいことなんだからさ

村 みんなして私のこと貧乏人だって馬鹿にしたの初め
てお月さん来た私のこと

風野 俺だって初めてだって

村 風野くんちはお金持ちでしょ

風野 俺んちが金持ちなのと村ちゃんちが貧乏なのは今関
係ないでしょ

村 私んち貧乏じゃないよ

風野 村ちゃんちは貧乏じゃないんだけれどさ

村 え ちゃんと言ってよお義姉さん亡くなるんだったら
亡くなるんだってさ

風野 村ちゃん

村 はい

風野 あの 俺もそうだよ

村 え

風野 ちゃんと村ちゃんとおなじように混乱してるよ今

村 うん

風野 だって俺覚えてないくらい小っちゃい頃にお母さん
もお父さんも死んで ずつと雨姉ちゃんがお母さんの代
わりでさ それで電話でばつと「死んだ」って聞かされて
も俺もどうしたらいいか分かんないよね 俺小っちゃい
頃からずつと雨姉ちゃんに結婚したら死ぬんだよって言
われてさ 俺もすっかりその気になってたつもりだっ
ただけだよ 村ちゃん

村 うん

風野 死ぬってなんか違うよね

村 うん

風野はあらためて、窓の外の景色を見た。

風野 お月さんて砂しかないんだね

村 そうだね

風野 もう少しにぎやかなとこだったらなあ 俺もこんな
にさびしくならなくてすんだなあ

村 そうだね

三場

月面。明と形はチューブに繋がれている。明は月の地平線
を眺めている。形は月面に埋まっている「薄い膜発生装置」
をいじっている。

形 ここに砂が詰まっていね

明 はい

形 ホテルの人が言うには それで雨子のチューブの先っ
ぽも壊れたんじゃないかって

明 すみません何から何まで

形 え

明 ホテルの人に連絡とか僕なんにも出来ないで

形 いいよそんな 昨日の今日じゃ気持ちもどうにもなら
ないでしょ

明 あの

形 うん

明 すみませんでした

形 明くん

明 はい

形 僕もまだいろいろ整理がつかないんだけど でも
とにかく とにかくです 本当にありがとう 雨子のわ
がままでこんなお月さんまで来てくれて

明 いえ

形 僕ら兄妹はね ちいちゃな頃に両親を亡くしまして
本当ならお兄ちゃんの僕が支えなきゃいけなかったんだ
けれど僕はなんかそういうの下手くそだったから 雨子
もうまく僕に頼れなかったんだと思う だから明くんの
ような人に巡り会えて本当に良かった 本当に良かった
って言い合ってたんです僕ら あ 僕らっていうのは僕
の心の中で僕と僕がということなんだけれどなんかこう
ね あるよね心の中で僕と僕で良かったね雨子 うまく
やってるね雨子 そこはもつと大胆に雨子 ね あるよ
ね

明 はい

形 あるよね

明 あると思います

形 でも僕は下手くそだったんだよ。だから雨子をうまく支えられないで、小学校の時にあいついじめられていて学校から帰ってくるとすぐに父の日記をめくりながらまるで呪文のように呟くんです。いつかお父さんお母さんのようにお月さまに行くんだ。お月さまで死んで、羊人間に生まれ変わるんだって。羊人間のことは聞いているよね。

明 はい

形 どう思う羊人間のこと

明 え、あの

形 どう思うお月さんで生まれ変わるだなんて

明 僕は、雨子の大事にしていたことなら信じたいと思っ
てます

形 そう

明 はい

形 そうかい、はは

明 え

形は明の前に右手を差し出す。

形 明くん、握手だ

明 え、はい

形 握手をしよう

明 え、はい

明は形の右手を握り返す。形も力強く握り返す。

形 結婚式は出来なかったけれど、僕たちは家族だよ、ね

明 ありがとうございます

形 うれしい

明 うれしいです

形 本当に

明 本当です

形 それなら僕のチューブを外してくれませんか

明 え

形 家族の手で、薄い膜発生装置から

明 なんて外すんですか

形 雨子がどういう状態だったのか知りたいんだ

明 危ないですよ

形 少しだけだから、家族だろう

明 はい

明は薄い膜発生装置から形のチューブを抜く。

明 外しましたけど

形 うん

明 どうですか

形 まだよく分からないな

明 しばらくは薄い膜も持続しますから

形 うん

形は月面の、地平線の向こうを見る。少しして、

明 あのつけていいですか

形 まだだよ

明 え

形 まだよく分からないんだ

明 でもそろそろチューブつけないと薄い膜剥がれちゃいますよ

形 もう少しだから

形は月面の、地平線の向こうを見る。もう少しして、

明 あのつけますねチューブ

形 待ってくれよまだ分かっていないんだ

明 でももう危ないですよ

形 まだ薄い膜残ってるんだから

明 だから薄い膜あるうちにチューブつけないと危ないですよ

形 いいんだよ明くん

明 え、形さん

形 明くん

明 はい

形 お義兄さんと呼んでよ

明 お義兄さん

形 うん

明 いやもうつけますね

形 まだだって

明 薄い膜剥がれちゃいますよ

形 薄い膜まだあるよ

明 薄い膜剥がれちゃったら干からびちゃいますよ

形 まだよく分からないんだよ

明 酸素ももう無くなりますよ

形 いいんだよ分からないんだから僕は

明 え形さん何がしたいんですか

形 お義兄さんだよ

明 お義兄さん何がしたいんですか

形 よく分からないんだよ

明は形のチューブを薄い膜発生装置に取り付ける。

形 ちよつと明くん

明 あの それはずるいと思います

明は、自分のチューブを外して、

形 え 明くん

明 お義兄さんは僕を恨んでるんですよ 僕が雨子にしたのと同じことをお義兄さんに繰り返させて僕が苦しむところを見せたいんですよ

形 違うよ誤解だよそれは

明 だったらどうしてこんなことさせたんです

形 チューブをつけようよ

明は自分のチューブの先を持ったまま、薄い膜発生装置から離れる。

形 薄い膜剥がれちゃうよ

明 僕は死ぬためにお月さんに来たんです 昨日も雨子のチューブが壊れた時僕も自分のチューブを外したんですけども気づいた時には僕のチューブだけ差し込まれていたんです 傍らには雨子の左手があつて雨子の薄い膜はとつくのむかしに剥がれて無くなっていたんです

形は明からチューブを奪い、薄い膜発生装置につける。

形 羊人間を信じてるかい

明 え

形 羊人間だよ

明 はい 雨子は僕の心の中で生まれ変わります

形 心の中とかそんなんじゃないよ

明 え

形 羊人間は本当にいるんだ 人間は死んだら本当にこのお月さんの上で生まれ変わるんだよ 地球にいた頃の記憶を携えて 明くんはどうして雨子が結婚式の前に死んだと思う

明 それはチューブが壊れたから

形 人の命を繋ぐものがそんな簡単に壊れるだろうか

明 え

形 雨子が自分で壊したんだよ 結婚式の前に死ぬ為に

明 なんでそんなことを

形 明くんは雨子に会いたいかい 羊人間になった雨子に

明 分かりません

形 分からないんだよ僕も でも雨子は来るよ 羊人間になつて 見ていておいで しつかり 見ていておいでね

四場

月のホテル。裏の丘。夢雨子が仰向けに寝ている。土雨子が立って、夢雨子の顔をじつと見ている。二人は、頭にアンテナをつけている。夢雨子は目を開けた。

土 あ

夢 え

土 おはよう 雨子ちゃん

夢 おはよう あれ 死んだ私

土 死んだよ そんなで

夢 うん

土 もう羊人間だよ私たち

夢 あなたも

土 うん

夢 あなたも雨子ちゃん

土 そう

夢 二人になっちゃったの

土 そうよ 私たち二人になっちゃったよ

夢 羊人間てみんなそうなの

土 分かんない 初めてなったから

夢 そうだよ

土 とりあえずあなたも私も指は五本ずつあるよ

夢 え

土 よくあるでしょう 一人の人間を部分部分で分けてあ
なた右手の親指で私右手の人差し指でって

夢 あんまりないと思うよ

土 あなた全部ついてたよ 私全部ある 目とか鼻の穴と
か

夢 あるよ

土 鼻毛とか

夢 え鼻毛全部あるか分かるの

土 数えて数えて

夢 いいよ

土 あはあは

夢 ちよつと動かないでよ

土 だって本気で数えてるんだもん

夢 えちよつと横になって横になって

土 なんでなんで

夢 光が鼻の穴の中入らないんだよ

土 雨子、横になる。

土 なんか全然違うね

夢 え

土 顔とか 生きてた頃こんなだった

夢 あなたも違うよ

土 やっぱりそう

夢 きれいな鼻毛

土 どうするこれから

夢 あの人死んだかな

土 死んでないよチューブ繋がってたんだから

夢 どうして

土 え

夢 どうしてチューブを繋げたの

土 そんなこと私に聞かないで

夢 雨子 自分のことでしょう

土 雨子 自分のことでしょう

夢 どうするこれから

土 一緒に会いに行こうか

夢 二人で行っても困らせるだけだよ

土 じゃあじゃんけんする

夢 え

土 絶対に会いたいでしょう

夢 じゃんけんに負けたら

土 絶対に会わない

夢 そうだね

土 私ちよき出す

夢 えひどい

土 私ちよき

夢 なんでそんなひどいこと言えるの

土 私絶対に会いたい

夢 公平にしようよこういうの

土 私ちよき出す

夢 じゃあじゃんけんしない

土 えなんで

夢 キスして

土 え ブス

夢 私も絶対嫌なんだけど考えようよ どっちかしかない
って キスカ 包丁で刺すか

土 え 私は刺すよ

夢 刺せないよ

土 なんでよ

夢 お腹の子 どっちにいますと思う

土 え

夢 やっぱりじゃんけんしよ

土 えひどい

夢 ひどいよ私も

土 それすごくひどいよ

夢 ちよき出すでしょ

土 ちよき出すよ

夢 じゃんけん

土 ちよつと待って一緒に言お

夢 うん

夢・土 じゃんけんぼち

夢 雨子はぐーを出した。土雨子はちよきを出した。二人は
自分の指先を見つめた。

土 いってらっしゃい

夢 うん

土 大丈夫よ

夢 うん

夢 雨子は月のホテルへ向かう。

五場

風野は思い出の中で、自宅のベランダから月を見ていた。
花 雨子が来た。

花 風野

風野 あ 人妻

花 まだ人妻じゃない

風野 どうしたの帰ってきて 準備終わったの

花 全然

風野 もう出発するんじゃないの

花 明後日に行くよ

風野 そう

花 風野はベランダが好きだね

風野 この家のものは大体好きだよ

花 私はほとんど嫌い

風野 そう

花 だけれどベランダは好き 風野がいるから

風野 俺 そんなにいたことないけどな

花 お月さま行ってくるよ

風野 うん

花 信じられないね私

風野 うん

花 本当にお月さま行くんだね

風野 そうだね

花 飛行機より安全って本当

風野 怖いの

花 さびしい 私の小さい頃から全部が変わっていった

風野 うん

花 風野もさびしいでしょう

風野 うん

花 私に結婚してほしくないでしょう

風野 してほしいよ

花 そうなの

風野 俺はこのさびしい感じ好きなんだ

花 風野

風野 うん

花 「お母さん」って言うてみて

風野 え

花 最期に「お母さん」って言うてみて

月のホテル。風野は地下の一室にいた。その部屋の真ん中には冷たくなった花雨子が寝かされていた。風野の傍には村が立っていた。

風野 本当に死んでる

村 お顔きれいだね

風野 お月さんだときれいなままにしやすいんだって

村 ばい菌とかいなさそうだもんね

風野 でも脳みそはどろどろになっちゃってるんだよ

村 そうなの

風野 死んだら死んでも脳みそだけは元に戻らないんだよ

村 脳みそどろどろになったらどんな気持ちになるんだろ
う

風野 はかりしれないね

村 風野くん

風野 うん

村 どうして死んじゃったの

風野 幸せになったからだよ

村 幸せになったんなら生きてこうってなるんじゃない

風野 村ちゃん 幸せになったんなら いつまでこれが続
くんだろうって不安になるんだよ

村 うん

風野 だから幸せのてっぺんの時に凍らせるんだよ

村 じゃあなんで結婚式の前に死んだの

風野 うん

村 うん

風野 なんでかな

村 私正直に言っている

風野 うん

村 私たちもおんなじことするの

風野 おんなじことって

村 私と風野くんが結婚したら私殺されるの

風野 羊人間になるんだよ

村 私はならないよ

風野 村ちゃん 誰だって死んだら羊人間になるんだよ

村 うん

風野 だったらしんどくなる前に死んどきたくない

村 風野くん

風野 はい

村 そんな無責任なこと本当に言ってるの

風野 え 責任で誰に

村 私地球に帰るよちゃんと

風野 俺も帰るよ

村 私風野くんと地球帰るよちゃんと

風野 俺も帰るよ

村 風野くん

風野 帰るよ

村 風野くん

風野 帰るって

村 風野くん

風野 帰るって

村 風野くん

風野 帰るって

村 風野くん

風野 帰るよ

村 風野くん

風野 帰るよ

村 風野くん

風野 村ちゃんごめん 分かりません確かに

村 うん

風野 だから今晚は最高のえっちさせてください

村 いいよ

風野 無重力えっち

村 あるよ重力

村、待ってる。風野、村に顔を近づける。気づいて、花雨子の目を塞ぐ。顔を近づける。かちやり。地下室のドアが開く。廊下の光の中に誰かが立っている。頭にアンテナがある。カゼノである。

カゼノ すみません

風野 はい

カゼノ どの部屋にも誰もいなくて

風野 このホテル今日は僕たちだけなんですよ

カゼノ さびしいところですね

風野 お月さんの上ですから

カゼノ そうですか

風野 あの 頭に何か刺さってますよ

カゼノ はい 羊人間ですから

風野 え

カゼノ はい 「カゼノ」といいます

風野 え

カゼノ はい

風野 あれ

村 風野くん

風野 村ちゃん 目が痛い

村 え

風野 あてて え 村ちゃん目が痛い

村 え 砂が入ったんじゃない

風野 砂が入ったのかな

村 ホテル病院行こうよ

風野 え 痛い痛い

村 ホテル病院行こホテル病院

村は風野に寄り添って地下室を出た。カゼノはじっと見ていた。

六場

月のホテル。雨子と明の部屋。かちやり。明が部屋のドアを開けると、ベッドに夢雨子が座っていた。

明 え

夢 うん

明 雨子

夢 うん

明 え 本当に雨子

夢 そうだよ

明 なんか 顔変わったね

夢 羊人間になったから

明 え 立ってみて

夢 雨子、立つ。

明 動いた

夢 動くよここにいるんだから

明 え 本当に雨子

夢 雨子じゃなかったらどうする

明 え

夢 私 顔も身長も声も指先も脳みそも全部変わって 今までなにが雨子だったの

明 分かんないけど僕のこと今 すごいなんか 雨子っぽく見えているよ

夢 ただいまって

明 うん

夢 地球で私が家に帰って「ただいま」って言ってたでしょ

明 うん

夢 雨子の深い思い出の中で私が「ただいま」って言うとき明くんは「うん」を2018回と「おかえり」を603回と「遅かったね」を89回と「早かったね」を20回とその他をちょうど300回返してくれたの

明 え

夢 今驚いたでしょう

明 え うん

夢 ねえこっち来て

明は動かない。

夢 私のこと触って

明は動かない。

夢 やっぱり私化け物

明 そうじゃないよ

夢 じゃあこっち来て

明 なんか僕 裏切られたように感じてて いや 裏切られたとかそんなんじゃないって分かてるんだけど裏切られたとかじゃないんだけれど ああ 僕 裏切られたよね

夢 裏切ってないよ

明 じゃあ僕はなんで生きてるの

夢 え

明 なんで僕のチューブだけ繋がってたの 僕あの時僕のチューブも外したよね 雨子のが壊れて繋がらなくなっ

夢 え 私もよく覚えてないあの時のこと

明 挨拶の回数は覚えてるのに

夢 私は明くんがチューブ外してくれて嬉しかった

明 じゃあなんで僕が気がついた時にチューブが繋がってたの

夢 あの

明 うん

夢 覚えてない

明 じゃあ本当の雨子に聞いてきてほしい

夢 え 私雨子だよ

明 そうだよね でも ごめん

夢 ねえ 触って

明 ねえ 雨子は今どこにいるの

夢 私 ここにいるよ

明 本当の雨子は挨拶の回数なんて覚えていないよ

夢 え 明くん 喧嘩しないでおう

明 喧嘩してないよ

夢 怖い顔やめてよ

明 僕ちよっくら死んでくるよ

夢 なんでちよっくら死なないで

明 ちよっくら死んで本当の雨子を探してくるよ

夢 ねえ触って

明 触ってどうするの

夢 触ったら私のこと本当だって分かるよ

明 僕がびびってふるえてたからそれで雨子は僕のチューブ繋ぎなおしてくれたんだもんね

夢 違うよ触ってお願い

明 こんな情けない奴と一緒に死にたくなかったんだよね

夢 そんなことない私一緒に死にたかった

明 僕ちよっくら死んでくるよ

夢 私も分かんないんだよ気づいたらホテルの裏にいて

全部本当にそこにあるものなのかどうか　だから触ってほしい

明　触って本当だったら雨子は本当になっちゃうんだよね

夢　え　どうということ

明　僕もよく分かんないからちよつくら死んでくるよ

夢　じゃあ私アンテナちぎるね

明　え　なんで

夢　（アンテナを引つ張りながら）明くん死に行くのならわたしたたたい　えこれすごく痛い　ごめん明くん

明　えやめなよ

夢　でもアンテナやめて明くんは

明　ちよつくら死んでくるよ

夢　（アンテナを引つ張り）わたたたいわたたたいわたたたいわたたたいわたたたい

明　なになにがしたいんだよ

夢　出て行かないで

明　雨子にしか

夢　触って

明は夢雨子をじつと見た。

夢　触るだけでいいの

明　雨子にしか見えないなあ

夢　私この部屋で待ってる

明は部屋を出て、ドアを閉めた。がちや。ばたん。夢雨子は明がもう一度ドアを開けてくれるのを待った。

七場

月のホテル。形の部屋。形が戻ると、形のベッドの上に土雨子が座っていた。形と目があった。二人は背筋を張った。

形　雨子

土　お兄ちゃん

形　え　雨子

土　私雨子に見える

形　分からないけれど

土　今名前を呼んだ

形　だって　分からないけれど

土　私いつの間にかお月さまのホテルの前に立ってたのどうしていいか分からなくて　それでお兄ちゃんの部屋に来たの

形　なんで僕の部屋なんだよ

土　お札がしたくなったのよ　お兄ちゃん

形　うん

土　お父さんのように　私をここまで育ててくれてありがとう　お月さままで連れてきてくれてありがとう

形　お前　本当にこれでよかったのか

土　私今幸せよ

形　嘘を言っているね

土　なんで

形　お前が今本当に幸せを感じてるならお前は絶対に明くんの部屋に行くよ　でも僕の部屋を選んだということは幸せじゃない何かがこの部屋にあるんだよ

土　どうということ

形　なんで結婚式をせずに死んだんだよ

土　あれは事故よ

形　ちいちゃい頃から今まで僕はずっとずっとお前の幸せばかりを求めてきたんだよ　お月さんに来るのだったこのお月さんのホテルを貸し切りにするのだったお前ものすごいお金がかかっているんだよ　いやお金の話じゃないことは分かっているんだよ　でも教えてだよだって僕はもう実家も土地も全部売っぱらっちゃって兄妹の思い出一つ引つ提げてここまでやって来たんだよ　それをお前は台無しにしたんだよ

土　そうよ

形　そうよ　そうよってなんだい

土　お兄ちゃん　私二人いるの

形　ん　え

土　羊人間の雨子が二人になっちゃったのよ

形　え　どうということ

土　明くんともう一人　私　一緒に死んでほしい人がいたのかもしれない

形　え

土　私　もうすぐお月さまの裏側へ行くの

形　どうして

土　羊人間になれば分かるわ　地球って眩しいのよ

形　あんな　眩しいことないよあんな小さいの　眩しいことないよあんな丸いの　小さいの

土　小さくて　もう私の帰れない場所

形　雨子はなんで僕の部屋に来た

土 聞きたい

形 聞きたい

土 じゃんけんで負けたの

形 え

土 雨子は形の左腕を持ち、腕から手の甲、指先を少しずつ撫でていく。

土 雨子 お兄ちゃんの左手だけ好き 右手が風野で左手が雨子 ねえ覚えてる 夏の日 三人で手を繋いだまま畳の上に横になって お父さんのエアコンを最強にして寝るの 誰にも怒られない夕暮れの青

形 あの

土 うん

形 ごめんよ

土 雨子は立って、部屋を出ていく。がちやり。ばたん。形は身体を硬直させたままドアをじつと見ている。

八場

風野は思い出の中で、自宅のベランダから月を見ていた。花雨子が来た。

花 風野

風野 あ 人妻

花 まだ人妻じゃない

風野 明さんと喧嘩したの

花 なんで

風野 こっちに帰ってくるなんて珍しいじゃん

花 風野はベランダが好きだね

風野 この家のものは大体好きだよ

花 私はほとんど嫌い

風野 うん

花 私許さない お兄ちゃんのことと私のことも 何も言

つてくれない風野のことと

風野 うん

花 でもベランダにいる風野は好き

風野 浮気しに来たの

花 私 風野とだけ秘密を作りたいのよ

風野 明さんと作りなよ

花 明くんとは赤ちゃんが出来たからいいの

風野 え

花 そうよ

風野 え 赤ちゃんいるの

花 そうよ

風野 え お月さん行けないじゃん

花 行くよ

風野 行くの

花 結婚して 羊人間になるの私たち

風野 明さんは何て言ってるの

花 言ってるない

風野 え 赤ちゃんのこと

花 言ってるないよ

風野 そりゃ そうか

花 秘密はここからだね

風野 え まだ秘密じゃなかったの

花 私この子にとびきりの名前を考えたの

風野 うん

花 カゼノ

風野 え

花 カゼノっていうんだよ

風野 なんで

花 この名前 本当は私がほしかったの たまらなくほしかったんだよ お母さんがカゼノって呼ぶ時に眩しいくらいに嬉しそうにしている 私嫉妬してたの

風野 雨姉ちゃん

花 なに

風野 お腹の子 誰の子なの

花 明くん

風野 明さんの子だったらお月さんへ行かないと思うよ雨姉ちゃんは

花 行くよ

風野 行かないよ

花 行くよ どこまでも

月のホテル。風野と村の部屋。風野はベッドに横になっている。両方の目に一つずつ、冷えピタを×の形にしたような絆創膏を貼っている。村はその傍らに付き添っている。カゼノも近くで見守っている。

風野 カゼノ

カゼノ はい

風野 羊人間になれたんだね

カゼノ はい

風野 言葉はどこで覚えたの

カゼノ お腹の中で母と父の思い出遣伝子を繰り返し見ました

風野 羊人間はすごいね

カゼノ 違いますよ 地球人間は皆お腹の中で思い出遣伝子を繰り返し見るんです だけど地球に生まれた衝撃で全部真っ白になるんです 俺は生まれなかつたからなんか真っ白になれなくて

風野 そう

カゼノ あの 握手をしてくれませんか

風野 うん

風野は手を差し出す。カゼノは恐る恐るそれに触れる。

カゼノ すごい べとべとしてる

風野 失礼だね

カゼノ え べとべとしてたら失礼なんですか

風野 べとべとしてる人に向かってべとべとしてるって言うのが失礼

カゼノ そうか 大変ですね

風野 なにが

カゼノ なんか 生きるのって だって 絶対べとべとするのに 生きてたら

風野 カゼノはさらさらしてるね

カゼノ 俺はお月さまの砂で出来ていますから

風野から返事はない。

カゼノ 風野さん

村 え 風野くん

村は動揺し、風野に寄る。風野からかすかに寝息が聞こえる。

カゼノ 眠ったんですよ

村 あの

カゼノ はい

村 あの ごめんなさいその手

カゼノ え

村 その手を あの

カゼノ え あ

カゼノは風野の手を放す。村と風野から少し離れながら、

カゼノ ごめんなさい

村 いえ

カゼノ あの 大丈夫ですよ

村 え

カゼノ 羊人間だからって何か特別な力があるわけじゃない

いですから

村 はい

カゼノ 地球人間とおなじですから

村 あの

カゼノ はい

村 どうして「カゼノ」なの

カゼノ あの 大丈夫ですよ

村 なにが

カゼノ 俺 風野さんと同じカゼノって名前ですけどこの人の生まれ変わりじゃないですから

村 はい

カゼノ だから本当に 俺別に風野さんに何かしようだとか思っていないですから

村 違うの

カゼノ え

村 私はあなたの名前がどうして「カゼノ」なのか聞いたんだよ

カゼノ それは 分らないです

村 どうして

カゼノ お母さんがつけてくれた名前ですから

村 お父さんは

カゼノ え

村 お父さんはあなたが「カゼノ」だと知ってるの

カゼノ お父さんは

村 うん

カゼノ 知らないです

村 どうして

カゼノ え

村 赤ちゃんのお名前って 二人で決めるものじゃない

カゼノ 俺分かります

村 あなたのお父さんは誰なの

カゼノ 俺分かります

村 思い出遺伝子を見て知っているんでしよう

カゼノ 俺分かります赤ちゃんですから

村 ねえ本当のことを言っつてよ私だけ置いてけぼりなの分かるでしょう

カゼノ ごめんなさい

村 あなたが謝ることじゃないの赤ちゃんなんだから

カゼノ ごめんなさい

村 私はあなたに赤ちゃんらしく純粋な言葉を口にしなさいつて言っているの

カゼノ 俺だつて置いてけぼりなんです

村 置いてけぼりなのは私だけです

カゼノ 俺も置いてけぼりに入れてください

村 私だけです置いてけぼりなのは

カゼノ 地球人間で怖い人間ですね

村 なにを

カゼノ だって俺はただ名前が「カゼノ」というだけなんです

村 おかしいよ怖いのはだつて羊人間の方でしょう なんなの羊人間で

カゼノ 地球人間の死んだ後の形です

村 なんなのあなた達の兄弟 人間で死んだらね

カゼノ はい

村 死んだらそれで終わりなの

カゼノ それは違います

村 なんなのあなた達の兄弟

カゼノ それで終わりなら俺はなんなんです

村 私は地球へ帰る

カゼノ はい

村 風野くんときちんと地球へ帰る

カゼノ そうしてください

村 お願い

カゼノ え

村 風野くんのこときちんと地球帰してあげて

カゼノ 俺 盗んでないです風野さんのこと

村 風野くんの目を元に戻して

カゼノ 月の砂が目に入ったんだつてホテルのお医者も言つてたじゃないですか

村 風野くんのことちよつとずつ盗んでかないで

カゼノ あの 誤解していませんか羊人間のこと

村 だつて生まれたかったよね

カゼノ え

村 お月さまじゃなくて地球で

カゼノ あの

村 生まれたかったよね

カゼノ 村さん

村 なに

カゼノ 俺も俺のこと何がしたいのか分かってないんですだつて俺 赤ちゃんですよ なんかなんでこんななんか成長しきった感じで羊人間になつちやったのか俺も分か

らないんですけどなんか納得は出来ないうすよね ねえ納得出来ないですよね村さん

村 はい多分

カゼノ え多分てなんだろう

村 だつて私そんなにいきなり成長したことないから

風野 むにやむにや カゼノ カゼノくん カゼノ カゼノちゃん カゼノちゃん

カゼノと村、目をあわせる。

村 うん

カゼノ あの

村 うん

カゼノ 俺 村さんと一緒に会に行きたい人がいるんです

村 私と

カゼノ はい 来てくれませんか一緒に

村 うん

村は、風野をベッドに寝かせてあげて、

村 いいよ

カゼノ はい

村 いいよね 風野くん

九場

月のホテル。地下室のドアが開いて、明が入ってきた。花雨子が台の上に横たわっている。

明 雨子

土 なに

明 え

明から見て、横たわっている花雨子の向こう側に、土雨子がうづくまつていた。羊人間のアンテナだけが、明にびよっこり見えている。

土 なに突然こんな地下室まで来て

明 雨子

土 雨子って私の名前

明 うん

土 ここで横になって死んでる私の名前

明 そうだよ

土 なんで死んでるのに名前を呼んだの

明 生き返るかなと思って

土 生き返らないよ 脳みそどろどろだよ

明 じゃあなんで喋ってるの

土 驚かせようと思って

明 なんで驚かせたいの

土 明くんの間抜けな声が好きだったから

明 好きだったんならなんで僕も死なせてくれなかったの

土 私が死にたくなかったからよ

明 え 本当に

土 分かんないけどもう死んじやったし

明 アンテナ見えてるよ

土 雨子、アンテナを曲げて明から隠す。

明 雨子死にたくなかったの

土 分かんない

明 なんでお月さんなんか来たんだよ

土 明くんが僕も死ぬって言うからよ

明 雨子が死にたいって言ったからじゃん

土 嘘だよ

明 え 雨子

土 死にたくないけど死ななきゃいけない時があるのよ女には

明 男にはないんかよ

土 男にはないのよ間抜けだから

明 雨子

明は花雨子の身体ごしに土雨子を覗きこむ。土雨子は床に四つん這いになって、明に顔を見せないようにする。

明 羊人間で分身するの

土 なんでこんなとこに来たの

明 雨子の顔が見たくなって

土 あなたの部屋にも来たでしょう

明 来たけどうまく話せなかったよ

土 下手くそでも一緒にいなきやだめじゃない

明 雨子

土 うん

明 死にたくなかったの

土 いきなりこんな地下室に来たらだめじゃない

明 お前はなんでここにいるんだよ

土 お願い 帰って

明 僕の部屋今知らない雨子がいるんだよ

土 地球に帰って

明 地球

土 地球

明 地球のどこ

土 地球の日本

明 地球の日本のどこ

土 地球の日本の福井県

明 地球の日本の福井県のどこ

土 地球の日本の福井県鯖江市のあなたの家

明 雨子の家だろ

土 私あなたが帰ってきてもいいようにお米炊いた

明 お月さんと一緒に死ぬって言ったのに

土 お茶も沸かしちゃった

明 お茶もご飯も腐ってるだろ

土 私もうお月さま来る前から狂っちゃってたのよどうしていいか分かんないしもうチケットもとっちゃったし

う行くしかなかったのよ私

明　じゃあなんで雨子だけ死んだんだよ

土　失敗したわ私　私一人だけが羊人間になってもあなたにだけは会わないでおこうって心に決めていたのに　お月さまにはホテルが一つだけしかなくて　小っちゃいホテル　小っちゃいホテルだし明くんは間抜けだし　くそ　死ね

土は四つん這いのまま、かさこそと地下室を抜けようと入口へ向かう。明は追いかける。その時、「臘月夜」が聴こえてきた。花雨子の動かない口から。明は花雨子を見る。

なのはなばたけに　いりひうすれ

みわたすやまのは　かすみふかし

はるかぜそよふく　そらをみれば

ゆうづきかかりて　においあわし

十場

風野は思い出の中で、花雨子に会っていた。

風野　明さんのどこがよかったの

花　間抜けなことなんでもかんでも忘れるくせに私のことは覚えていてくれること

風野　羊人間の話ししたの

花　分かったって言ってた

風野　結婚式のすぐ後に死ぬのに

花　分かったって言ってた

風野　すごい人だね

花　間抜けでしよう

風野　間抜けというか

花　間抜け過ぎてさびしくなったの私

風野　だからこつち帰ってきたの

花　風野なら分かってくれると思って

風野　うん

花　私のさびしい気持ち分かってくれると思って

風野　分かるよ

花　風野

風野　うん

月のホテル。雨子と明の部屋。夢雨子がベッドから立ち上がる。まるで目の前の風野に話しかけるように、

夢　風野

部屋を出る。がちやり。ばたん。廊下を歩く。

夢　風野　風野　風野　風野

やがて、風野と村の部屋の前に来る。ドアノブを回す。ドアが開く。がちやり、ばたん。部屋の中に入る。

夢　風野

風野は目を覚ます。

風野　雨姉ちゃん

夢　久しぶり

風野　羊人間になったの

夢　なにその絆創膏

風野　月の砂が目に入ったんだよ

夢　嘘だよ　さびしくて泣いてるとこ見られたくないんでしよう

風野　村ちゃんは

夢　誰もいないよ　風野と私の二人きり

風野　明さんと喧嘩したんだろ

夢　してないよ

風野　なんで明さん生きてるんだよ

夢　分かんない

風野　俺知ってたよこうなるって

夢　え

風野　明さんだけ生きてて　喧嘩して　どうしていいかわかんなくなつて俺んとこ来るんだよ　雨姉ちゃん頭悪いから

夢　そうだね

がちやり。ドアが開く。土雨子が入ってくる。夢雨子と目があう。二人、笑いをこらえる。ばたん。土雨子、ドアを閉めて、夢雨子と並んで座る。

風野 村ちゃん

夢 風よ

風野 お月さんに風はないよ

土 あるのよ 風野なんにも知らないで

風野 雨姉ちゃん

夢・土 なに

風野 うん

夢 なに

風野 いや

土 風野

風野 え

夢 風野

風野 なに

土 風野

風野 なんだって

夢・土 風野

風野 あの

夢 なに

風野 これからどうする

土 どうするって

風野 俺ら もうお別れしなくちゃいけないよ

夢・土 どうして

風野 え 死んだんでしょ

夢 そうだよ

風野 え 死んだんだよね

土 そうよ

風野 え 本当に死んだの

夢 死んだよ

風野 そう

土 ごめんね

風野 うん

夢 脳みそ

風野 うん

夢 脳みそどろどろになっちゃって

風野 うん

土 私たち お別れするんだね

風野 お葬式しようか

夢 え

風野 それかもう一回結婚式

夢 結婚式まだやってないよ

風野 そうだよ だからややこしいんだよ

夢 そうだね

風野 俺もうすぐ地球帰るよ

夢 うん

風野 お葬式と結婚式 どっちにするの

夢 結婚式（土雨子と同時に）

土 お葬式（夢雨子と同時に）

風野 え

夢雨子と土雨子はどつき合う。

風野 え誰かいるの

夢 誰もいないよ

土 私だけよ

風野 え羊人間で一人でハモれるの

夢 ハモれるよ（土雨子と同時に）

土 ハモれないわよ（夢雨子と同時に）

風野 え誰

夢 風野

風野 誰がいるんだって

土 風野

風野 え 村ちゃん

夢 だから私だけだって

土 私と風野の二人だけ

風野 もうなんなの

風野の声がふるえてる。

夢 あれ

風野 本当に死んだの

土 風野

夢 ごめん 風野

土 死んだよ 風野

風野 雨姉ちゃん

夢 うん

風野 俺 帰っていいの

夢 帰っていいよ

土 帰らないでいいよ

夢 え

土 なんでこの部屋にいるの

夢 うん

土 明くんの部屋戻りなよ

夢 うん

土 じゃんけん負けたの私でしょ

夢 雨子、立ち上がり、部屋を出る。がちやり。ばたん。

風野 雨姉ちゃん

土 風野 このさびしい感じ好き

風野 え

土 言ってたでしよう地球で 私のいなくなったさびしい感じが好きなんでしょう

風野 うん

土 私風野がいればお兄ちゃんのことも許したげるよ

風野 うん

土 私と一緒に羊人間になりたい

風野はこたえない。

土 またお父さんのエアコン最強にして三人で寝そべろう

よ

十一場

月のホテル。形の部屋。形がベッドに座っている。カゼノが形と向き合って、椅子に座っている。村はカゼノの傍にいます。

形 カゼノ

村 はい

形 ちゃん

村 赤ちゃんですから

形 そうか カゼノちゃん

カゼノ はい

形 あの 雨子はね うん 来たよ羊人間になって よく分からないことを言って出て行ってしまった 明さんの部屋にいるのかもしれないね

カゼノ そうですか

形 あの カゼノちゃん

カゼノ はい

形 雨子が あなたのお母さんがこんなことになって あの意味なんというか 悲しい 辛い気持ちもあると思うんだけど 大丈夫だよ 僕は君とこうやって言葉を交わせて嬉しいです ありがとう

カゼノ はい お父さん

形 そうだね お父さんにも会いたいね あの明くんの明くんの部屋に行きますか 村さん行くんですかね

村 え はい

形 そう

村 あ 呼んできましょうかここに

形 あ いやどうだろう この子と明くんが出会うのはどうだろうかな あの いやこれは僕たち兄妹の問題のよ うな気もしてね

村 え

形 え あ 問題って別にそういう意味じゃないよ困った なんかまいったなとかそんなことは全然無くてですね もちろん その あの例えばお母さんは 雨子は君を妊娠していたことをもし知らなかったとしたらどうだろう

カゼノ 知っていました だから名前をもらったんです

形 あそうですか

カゼノ はい 思い出遺伝子の中でお母さんは何度も俺の名前を呼んでくれたのです

形 あそうですか え思い出遺伝子ってなんですか

カゼノ お腹の中の赤ちゃんはお母さんとお父さんの記憶を全て閲覧出来るのです 俺が言葉を操ることが不思議ではありませんか

形 あそういえばそうだね えそれはその思い出遺伝子というのなんだろうそのお母さんやお父さんの見たものは聞いたことや考えていたことも全部筒抜けってことになるのかな

カゼノ あの

形 うん

カゼノ 知りたいですか俺のお父さんのこと

形 あの

村 あの

形 うん

村 やっぱり呼んできましょうか明さんここに

形 それはやめた方がいい

村 あすみません

形 ああでも村さん

村 はい

形 飲み物を買ってきてもらえませんか申し訳ないけれど
ねえ たくさん話して喉が渇くよねえ

カゼノ 渴いていません羊人間ですから

形 僕は渴いたんですよ地球人ですから

カゼノ あすみません

形 ねえ村さんちよつといいですか申し訳ないけれど

村 はい

形 あでも村さんくれぐれも村さん ああ 明くんには言
わない方がいい絶対に

村 えでも

形 えちよつと考えてみたら分かるでしょ この子のこと
を雨子さんがし明くんに知らせずに死んだとしたら明くん
相当傷つくことになるとても

村 そうだと思います

形 絶対言わない方がいいですよ

村 でも私知りたいんです

形 なにを

村 雨子さんがなぜこの子に「カゼノ」と名付けたのか

形 それは雨子が

村 はい

形 雨子が 僕たち兄弟を不思議な形だと思っていたから
です

村 はい

形 僕たち兄弟はちいちゃな頃に両親を亡くして 本当な
らお兄ちゃんの僕が支えなきゃいけなかったんだけど
僕はなんかそういうの下手くそだったら だからなんだ
か何かが歪んでしまつて 歪んでしまつても誰も何も出
来なかったのかな

村 お兄さん

形 うん

村 カゼノちゃんは誰の子なんです

形 ああ

村 はい

形 僕 ミルクティー

村 お兄さん

形 買つてきてもらえませんか 僕ミルクティー

村 ああ

形 僕ミルクティー

カゼノ 形さん

形 うん

カゼノ これを

カゼノはポケットから、鉛筆削りのような機械を取り出す。
テーブルに置く。

形 なにこれ

カゼノ これは「心削り」といいます

形 心削り

カゼノ はい これをこうやって頭の上に乗せてです

と言いつつカゼノは形の頭の上に心削りを乗せる。乗せ
て、つまみを回す。

カゼノ こうやってつまみを回していくとですね

形 うん

カゼノ その人の頭の中の思い出や気持ちがどんどん削ら
れてゆくというものなんです

形 うん ああ 今のこれは

カゼノ これは大丈夫です

形 えでも削られているんだよね今の僕これ

カゼノは心削りを形の頭から離す。機械のフタを開け、削
つたものを確認し、フタを戻す。

カゼノ 大丈夫です

形 え今僕は何を削られたんだろう

カゼノ それともう一つこれには使い道があつてです

形 僕は何を削られたんだろう

カゼノ 羊人間を消すことが出来るんです

形と村は目を見開いた。

カゼノ 俺は母のお腹の中で思い出が途切れました 次に
気が付くともうこの姿かたちになつていて お月さまの
ホテルの前に立っていたんです 俺はその瞬間に激しく
悩みました 俺はなぜ羊人間としてここに立っているの
か 俺は何がしたいのか でもすぐに理解したのです
俺の右手にこの心削りが握られていたんです これはき
つとお母さんが本当にやつてほしいことを俺に託したん
です この心削りを形さんに預けます

形　なんで僕なの

カゼノ　お母さんが望んでいるからです

形　こんなの誰に使えばいいんだよ

カゼノ　形さんが決めた人間に心削りを使うことが　お母さんの望んでいることなんです

形　え

形は心削りを手に取り、カゼノの頭にのせる。

村　す

形　え　こういうこと

カゼノ　形さん

形　うん

カゼノ　俺　海へ行ってみたいんです

形　そう

形出ていく。残されたカゼノと村。

十二場

雨の日。地球。明と花雨子が川を見ている。花雨子は夢雨子と土雨子の声をしている。

明　こんなに流れが急だと皆流されるって思うだろ

夢・土　みんなって

明　魚だよ　川の小さな魚　でも僕分かったんだよね　雨の日の川って誰もいなくなるだろう

夢・土　うん

明　でも雨が上がればすぐにみんな出て来るんだよ　下の方に流れていかに雨が降る前と同じ　そこに

夢・土　うん

明　だとしたらきつとこいつらは世界の裏側にいるんだ

夢・土　世界に裏側なんてあるの

明　そうだよ　みんな知っているんだよ　辛いことがあればいつでも隠れることの出来る世界の裏側　川の魚も動物園のトラとかも　人間の見ていないうちに一瞬で隠れる世界の裏側　人間だけが正直で　必死になってこつちの世界にしがみついている　正直で知識しかないから

夢・土　そう

明　羊人間でそういうこと

明は花雨子を見る。

夢・土　そうだよ

明　なれるといいね

夢・土　そうだよ

明　二人でね

夢・土　そうだよ

雨が涼しい。

十三場

思い出の中の雨の日。地球。形の部屋。形は心削りを手に持ったままうろついていた。そして帰ってきた。形がドアを開けると、花雨子がいる。

花　おかえりなさい

形　なんだ　帰ってきたのか

花　うん

形　勝手に人の部屋入るなよ

花　懐かしくなつて

形　小学生じゃないんだから

花　よくお父さんの日記この部屋で読んだね

形　お前だけだったよそんなの読むのは

花　私赤ちゃん生まれるよ

形　え

花　まだ形が出来たばかりだけれど　でも私分かるよ

形　医者には見せたのか

花　お兄ちゃん　赤ちゃんが生まれたら私海へ行くの　ね　え　明くんが好きな　春でも夏でも秋でも冬でも　ね　え　私と明くんとこの子で砂浜を歩くの　お昼間でも夕暮れでも夜中でも　ねえ　私分かるの　この子もきつと海を気に入るの　明くんの子だもの　ねえ　週末のどこか一日に必ず行くの　お弁当を持って　開いていても開いてなくても海の家で座って食べるの　ねえ　明くんのおにぎりすぐ上手なの　それしか自分の得意技が見つけられないんだってさびしそうに笑っていたの　だからその得意技を毎週必ず見せてもらおうの　ねえ　海へ行つ

て明くんのおにぎりを頼張るの この子もその瞬間がたまらなく好きになるの だって明くんの子なんだからねえ 晴れていれば地球の海へ行くの 雨の日はお月さまの海へ行くの どこでだって海の家に座るの ねえ この子砂浜を駆けるのが本当に上手なの 明くんの子なんだから ねえ お兄ちゃん 私たち砂浜を歩けばたちまち両手がいつぱいに塞がるの 砂浜って面白いからしたらガラスだかそこかしこに落ちているの この子はきれいなものを見つけるのも上手なの ねえ 明くんの子だもの 私のことを見つけてくれたように すぐに面白いからしたもので両手をいつぱいにしてお母さんに見せてくれるの ねえ お兄ちゃん お母さんほら さらさらがさらさらしてよって ねえ お母さん きれいだよって

雨の音がバケツをひっくり返したように響く。川の底。

十四場

月のホテル。地下室。花雨子の死体のそばに明がいる。そこに、カゼノと村が来た。がちやり。

村 あ
明 はい
村 すみません
明 どうしました
村 はい あの
カゼノ お母さんに会いに来ました
村 あ

カゼノ、明に少し歩み寄る。

明 お母さん
村 この子 雨子さんのお腹の中にいたんです
明 そう
カゼノ はい
明 ほら

花雨子が横たわっている。カゼノは歩み寄る。

明 どうだった雨子のお腹の中は
カゼノ 楽しかったです
明 そう
カゼノ あの
明 うん
カゼノ お父さん
明 いいよ
カゼノ え
明 無理しなくて
カゼノ はい
明 お前もしんどいね
カゼノ え
明 生まれたばかりでね
カゼノ はい

明 いきなりごちや混ぜの世界に放り出されてね
カゼノ 俺そんなものかと思ってました 生まれたばかりだから

明 もうちよつときらきらしてて楽しいよ世界は
カゼノ 海のことですか

明 そうだね 海はきらきらしてるね

カゼノ お母さんが言ってたんです 明さんは海が好きだって

明 動物園も好きだよ 雨の日の川を歩くのもきれいだよ

カゼノ お母さんも言っていました いつか俺を連れてってくれるって

明はポケットから口紅を出す。カゼノに渡す。

カゼノ え

明 お母さんの口紅 ひいてあげようと思って

カゼノ はい

カゼノは口紅を花雨子の唇にひこうとする。

カゼノ あの どういうふうにやればいいんですかこういうの

明 え 村さん

村 え

明 こういうのって 力加減とかどういいう感じなの

村 え なんか 唇にそつとあてて ぐいです

明 ぐいな

村 はい仕事行く前とかは

明 死んでるんだけど

村 あ はい じゃあ きれいだねって気持ちでいいです

明 気持ちでいいの

村 むしろ気持ちです

明 気持ちだって

カゼノ あ はい

カゼノは口紅をちゃんとだけひく。

明 あなた

カゼノ はい

明 雨子と僕の住んでた街は 雨の日が特別きれいなんだよ

カゼノ お母さんも そう感じていました

明 そう

カゼノ はい

明 地球 行ってみる

カゼノ え

明 村さんと一緒に行ってみたらいいよ

カゼノ いいんですか

明 お月さんの港で待っておいで

カゼノ でもその前にお母さんに聞いてみないと

明 こういうのはお母さんに内緒で行くんだよ

カゼノ そうなんですか

明 男の子の冒険にお母さんは反対するように出来てるん

だよ

カゼノ はい

明 見つかる前に行つていい

カゼノ あのお父さん

明 え

カゼノ お父さんです お父さん

明 うん

カゼノ 行ってきます

明 うん

カゼノ、出ていく。

明 羊人間て

村 はい

明 なんなんですかね

村 はい

明 生まれ変わってもさびしいんですね

村 そうですね

明 村さん

村 はい

明 あの子のことお願いします

村 明さんは

明 はい

村 地球に帰らないんですか

十五場

月のホテル。雨子と明の部屋。夢雨子の元に形が来た。形の手には心削りがある。

夢 なにそれ

形 心削りだよ

夢 そんなどこでもらったの

形 カゼノが来たんだ

夢 そう

形 この部屋に来て 明くんがいたら僕にこれを使ってもらおうって思ったんだ 雨子だけなら僕がこれを使っ

てあげようって思ったんだ

夢 いや別に聞いてないけど

形 まあ あの だから うん

夢 私今から消えるの

形 そうだよ

夢 こんななつちやったのはお兄ちゃんも悪いよ

形 いいとか悪いとかじゃないんだよ

夢 私 明くん待ってるの

形 明くんは帰ってこないよ

夢 そんなの分からないよ

形 カゼノが全部を明くんに教えるから

夢 風野はそんなことしないよ

形 弟の風野はね

夢 え

形 お前のお腹の中にいたカゼノが全部明くんにはばらすんだよ

夢 え

形 言ったじゃないか 僕の部屋にカゼノが来たんだよ

夢 カゼノ お腹の中にいないの

形 羊人間になってホテルじゅうろうついでるんだよ

夢 カゼノ

夢 雨子、部屋を出ようと、

形 お前が気に病むことはないよ今から消えるんだから

夢 だめよそんな カゼノ

形 せめてお前が結婚式を挙げてくれたらさ

夢 お兄ちゃん 私そっちの方じゃない

形 そっちの方ってなんだい

夢 私は ねえお兄ちゃん 結婚式したかったの でももう一人の私がそれは絶対嫌だって お兄ちゃんにも風野にもひどいことをしてやるんだって ねえお兄ちゃん私じゃないよ 私はお兄ちゃんのこと好きなままだよ

形 え

夢 明くんと一緒にいたってそうだよ だって私たち兄妹だよ 不思議な形をした ねえ いつまでも不思議な形の兄妹だよ

形 雨子

夢 私 お兄ちゃんの左腕を触りたい 覚えてる お兄ちゃんと私と風野の三人で並んであたって お父さんのエアコン あついのになそのままぎゅって握ってたお兄ちゃんの左腕

形 覚えてるどころか雨子

夢 うん

形 僕はあの時のまんまだよ

夢 雨子は形にスキを見つけた。計算し尽くした俊敏な動きで形の心削りを奪い取る。

形 あめ

夢 雨子は心削りを形の頭にあてがい、一気に削る。形のなにかを。

形 あああああああああああああああああああ

形は削られ、その場に倒れる。夢雨子は心削りを持って、部屋を出る。がちやり。ばたん。

十六場

風野と村の部屋。がちやり。村が入ると、誰もいない。

村 あれ 風野くん 風野くん

こんな狭い部屋。探すまでもない。途方に暮れる。

村 風野くん 地球へ帰ろう カゼノちゃんと一緒に 風野くん 風野くん

村は部屋を出る。廊下は明るく、果てしなく伸びている。

村 風野くん 風野くん

十七場

風野は思い出の中で、花雨子と出会う。

風野 あれ

花 風野

風野 え

花 なにその絆創膏

風野 月の砂が目に入ったんだよ

花 ベランダにいて

風野 ベランダ え 俺今自分ちにいるの

花 そうよ

風野 俺さっきまでお月さんにいたよ

花 あら それならお母さんとお父さんに会えた

風野 会ってないけど

花 お月さまなら会えたのに

風野 雨姉ちゃんには会ってるよ

花 私 きちんと結婚式出来てた

風野 うん

花 私 きれいだった

風野 きれいだったよ

花 明さん 喜んでいた

風野 喜んでたよ

花 私の死体はきちんと明さんの隣にいた

風野 いたよ

花 手 繋いでた

風野 繋いでたよ

花 私 泣いてた

風野 泣いてなかった 脳みそがどろどろになっていたから

花 羊人間になったのね

風野 そうだよ

花 風野

夢 カゼノ

土 風野

村 風野くん

風野 え

花 私 天の川へ行くね

風野 どういうこと

花 脳みそのなくなった真っ平な海があったの

風野 雨姉ちゃんは羊人間になるんだよ

夢・土 羊人間になるんだよ

村 風野くん

花・夢 地球人間は地球で生まれたんだよ

風野 お月さんにいるんだろう

花・夢・土 羊人間は羊で生まれたんだよ

村 風野くん

花 だから私は真っ白な星を目指すの

夢・土 私たち生まれた真っ白な星を目指すの

花 脳みその広がった真っ白な海

花・夢 真っ白な雲と真っ白な海

花・土 真っ白な鳥と真っ白な川と真っ白なお月さま

花・夢・土 真っ白な星と真っ白な風野と真っ白な私

花 宇宙の黒と真っ白な天の川

村 風野くん

花 真っ白な雨と真っ白な天の川

夢・土 風野

花 死ぬって 本当は遠いところにあるんだよ

村 風野くん 一緒に帰ろう

十八場

月面。風野が仰向けに倒れている。しゃがんで、風野の顔を覗き込むように佇んでいる土雨子。

土 うん

風野 俺死んだ

土 まだ死んでないよ 薄い膜がもうすぐ剥がれるところだよ

風野 そう

土 あんまり喋ると苦しいよ

風野 村ちゃんは

土 うん

風野 地球へ帰してあげてね

土 分かったよ

風野は喋らなくなる。

月のホテル。形の部屋。形が起き上がる。電気のついていない部屋。光を求める。部屋を出る。がちやり。ばたん。廊下を歩く。電気のついていない真っ暗な廊下。村がいる。

村 風野くん 風野くん 風野くん

村は形を見つめる。形の表情を見て、村は声がなくなる。形は村のそばを通り過ぎる。月のホテルを出る。月面。星がはつきりと広がっている。形は遠くに風野と土雨子を見つめる。風野と土雨子のそばへ、カゼノがやって来る。

カゼノ あの これは

土 人を殺しているところよ

カゼノ 風野さん

カゼノは悲しい。そのまま歩いて過ぎようとするが、

せる。

形 カゼノ

土 あなたどこへ行くの

カゼノ 俺はお月さまの港へ

土 羊人間なのに地球へ帰るの

カゼノ はい

土 逆じゃない

カゼノ そうですね

土 羊人間は皆地球を見るとなくなったことを思い出すから逃げるのよ

カゼノ そうですね

土 お月さまの裏側へ逃げるのよ

カゼノ 俺はなくなってますから

土 カゼノ

カゼノ はい

土 お願い

カゼノ え

土 地球へは明くんが帰るの カゼノは帰れない

カゼノ 明さんは帰らないですよ

土 お願い

カゼノ 明さんはお月さんに残るんですよ

土 カゼノ お願い

カゼノ 俺、海が見たくて

土 カゼノ

カゼノ はい

土はポケットから心削りを取り出す。カゼノの頭の上

土 雨子とカゼノが声のする方を向くと、形が立っている。

カゼノ あの
土 うん
カゼノ もう一回だけ 名前

土 カゼノ
形 おい

形 お月さんて本当に砂しかないんだね
土 そうよ

形 でも風が気持ちいいね
土 知らなかったの

形 薄い膜のせいで気づかなかったんだなずっと
土 覚えてる

形 うん
土 お父さんのエアコン

形 うん
土 夏の日の 三人で手を繋いだまま畳の上に横になって
誰にも怒られない夕暮れの青

形 左手が雨子で右手が風野で
土 カゼノ

カゼノは土を見る。

カゼノは形を見る。

カゼノ はい

月面。明が薄い膜発生装置にチューブを差して、それを外している。それを夢雨子が見ている。

夢 何してるの

明 予行練習だよ

夢 もう終わったよ

明 ここに羊人間の男の子が来なかった 男の子っていう
か赤ちゃんっていうか おっさん

夢 来てないよ ずっと

明 そう

夢 ずっと誰もいなかったよ

明 そう

夢 明くん 本当の雨子に会いたい

明 うん

夢 それなら お月さまの裏側へ行こう

明 裏側

夢 そうだよ

明 どれくらいかかるかな

夢 半年

明 携帯薄い膜発生装置もつかな

風野は、村の声がきれいだと思う。

夢 簡単だよ

明 え

夢 薄い膜がなくなるまで歩いたらいいよ そいで 薄い膜
なくなったら なくなったらままで歩けるとこまで 歩
いたらいいよ

明 そうだね

夢 砂浜みたいに

明 砂浜みたいに

夢 砂浜みたいに

明 砂浜みたいに

途切れる。

月のホテル。風野と村の部屋。村がドアを開ける。がちや
り。暗がりに、風野がいる。風野の頭にアンテナがついて
いる。

風野 村ちゃん

村 うん

風野 ああ

村 うん

風野 絆創膏もう取っていいのかな

村 もう痛くない

風野 多分

村 多分てなに

おわり

上演に関してはコトリ会議(kotorikaigi@gmail.com)
までお問い合わせください。